

第17回原子力損害賠償・廃炉等支援機構 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会 議事要旨

日時：令和8年1月28日（水）18:00～20:00

場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 大会議室

東京電力から燃料デブリの本格的な取り出しに向けた準備工程の現場検証・設計検証の進め方について、説明。

委員等からの主な意見は以下のとおり。

（原子炉建屋の線量低減について）

- 線源逆推定で最も重要な点は入力データを増やすことである。積極的にドローンを活用して、建屋内の調査を進めてほしい。
- 線量低減には不確かさが伴うため、スペクトル測定で線源特定を強化すべき。
- 細かい作業等で人手が必要となる作業が発生する。作業員の被ばく線量を十分に考慮した作業計画が必要。

（シールドプラグの対応について）

- ウェル内充填について、充填材は流動体を使う以上、水を使うことになる。水素発生、滞留のリスクを考慮した評価が必要。
- 充填材により廃棄物量が増えることになる。廃棄物管理側ともよく連携して検討を進めてほしい。

（廃棄物処理建屋の解体・撤去について）

- 「滞留水移送装置の移設・撤去」と「使用済樹脂の回収」の並行作業について、移送配管近くでの作業は難しいのではないかと。

（1・2号機準備作業の検討状況について）

- シールドプラグの健全性や汚染の程度は号機によって大きく異なる。各号機の原子炉建屋の状況も考慮した対応が必要。
- 各号機の原子炉建屋の状況について、1階だけでなく、2～4階の状況も報告してほしい。

（以上）